

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第36回

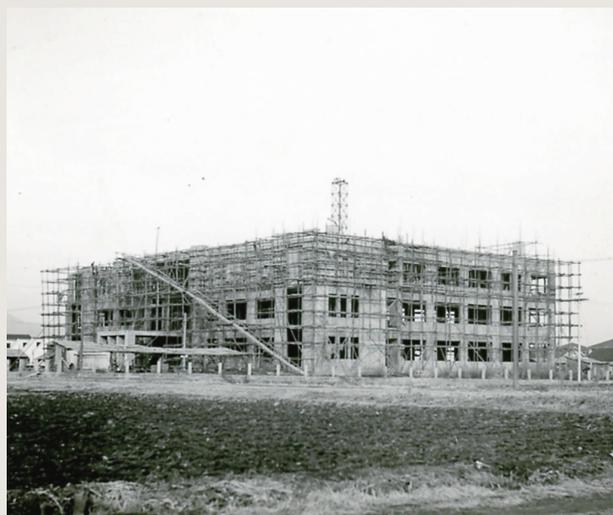
中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「長野営林局庁舎」

現在の中部森林管理局の庁舎は、昭和三十一年に竣工した旧「長野営林局」の庁舎が使われています。昭和二十二年に長野営林局が発足した当時は、本連載「帝室林野局木曾支局庁舎」(令和五年三月号)でご紹介した長野県福島町(現在の木曾町)の庁舎でしたが、これ

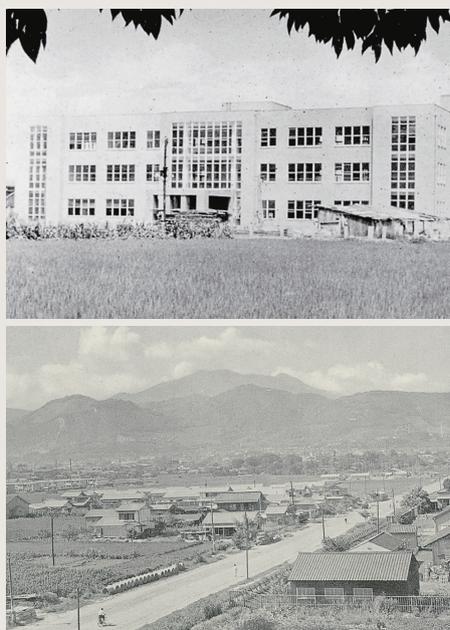


昭和30年頃
建設途中の長野営林局庁舎

が長野市に移転することとなります。

この当時の道路事情では、福島町から長野市への自動車での移動に七時間以上かかったと伝えられます。移転物資の運搬には営林局・各営林署の官用トラックが動員され、移転時期には毎朝十五台程のトラックが発発していたそうです。

「下写真 昭和三十一年の竣工当時の庁舎」



「下写真 昭和三十一年当時の庁舎屋上からの風景」

建設当時の庁舎周辺は田畑が多く広がり、どこか浮いた存在の建物だったとのことですが、昭和三十年代・四十年代の高度経済成長期には徐々に周辺の開発も進んでいきました。

また、かつては庁舎内に売店や電話交換室やタイプ膳写真室、敷地内に弓道場やテニスコート、時代によってはゲートボール場などがあつたそうです。

昭和四十三年五月にセスナ機から撮影された庁舎



長野営林局庁舎は平成十一年三月の国有林野事業の再編により中部森林管理局の庁舎となり、その後の耐震改修工事などを経ながらも現役の庁舎として使われ続けています。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。

